

## Reproduction of Tawny Nurse Shark

戸田 実・松本葉介・内田詮三（沖縄美ら海水族館）・手島和之（東北区水研）  
Minoru Toda, Yosuke Matsumoto, Senzo Uchida (Okinawa Churaumi Aquarium),  
Kazuyuki Teshima (Tohoku National Fisheries Research Institute)

沖縄美ら海水族館では、旧水族館を含め 1978 年よりオオテンジクザメの飼育を行っている。今回オオテンジクザメの飼育槽（円形生簀： $\phi 15 \times$ 水深 6.7m、及びコンクリート製水槽： $11 \times 9 \times$ 水深 2.5m、250 m<sup>3</sup>）で 2001 年 1 月 10、23、27 日に、各日 1 個体ずつ計 3 個体の仔魚がいるのが発見された。

発見時の 3 個体の全長は 62、65、70.5cm で、体型は親とあまり変わらず、腹部の著しい膨らみは見られなかった。出産する瞬間は観察出来なかったが、状況よりこれらの仔魚は出産直後のものと考えられた。発見された仔魚は、直ちに取り上げ別の水槽で飼育を行った。3 個体とも移動直後より、一般状態、摂餌等も良好で、正常な出産だったものと推定された。

出産した水槽で飼育されていたオオテンジクザメは、2000 年 10 月と 12 月に、美ら海水族館オープン用として、石垣で捕獲された 18 個体であった。この 18 個体の全長の平均は 228cm（範囲 150-330cm）、雌 16、雄 2 個体で、雌の全長の平均は 229cm（範囲 170-330cm）であった。

オオテンジクザメの性成熟全長は雄 250cm、雌 230cm と報告されているので（Compagno, 2001）、飼育中の雌 16 個体中、7 個体（230cm 以上の個体数）は出産の可能性はあるが、出産個体の確定は出来なかった。

オオテンジクザメの出産全長については、2004 年 9 月に沖縄で行われた、国際シンポジウム「板鰐類研究の発展、現状と将来展望」の手島等の研究発表「第 2 背鰭を欠くオオテンジクザメの現状と今後の研究方向」の中で、60cm 以上であろうと述べられており、この 3 個体の仔魚は、この事を裏付けるものである。

3 個体の仔魚の内、65、70.5cm の 2 個体が飼育開始後数週間で相次いで死亡するが、62cm の個体は、その後順調に成育し、2004 年 12 月末現在の全長は 176cm、当館の「熱帯魚の海」槽（水量 700 m<sup>3</sup>、幅 10.5 $\times$ 奥行 16.5 $\times$ 水深 2.5-6.6m）で飼育展示中である。